第 33 号
2021 年 2 月 8 日
（令和 3 年 2 月 8 日）

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行　特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8217
奈良市橋本町 3-1
きらっ都･奈良内NARAEGG気付

プレ 10 周年記念イベント、十津川村へのバスツアーを開催！

昨年来のコロナ禍で様々なイベントが中止や延期に追い込まれましたが、感染防止対策を徹底して実施したイベントもありました。ここではその主なものを紹介いたします。

（専務理事 鉄田憲男）

歴史民俗資料館（昨年 11/25）

小型バスで果無集落、玉置神社へ

当会は本年 4 月に設立 10 周年を迎えます。これを目前に控え、昨年 11 月 25 日(水)～26 日(木)、吉野郡十津川村を訪ねるバスツアーを開催したところ､17 人のご参加をいただきました。

両日とも、十津川村民で郷土史家の杉井辰彦さんを講師にお迎えし､歴史民俗資料館､果無(はてなし)集落､玉置神社などを巡りました。

果無集落（同年 11/26）

幸い天候にも恵まれ、玉置山からは紀伊山地の絶景を眺めました。

玉置山からの絶景（同日）

ホテル昴の玄関前で記念撮影（同年 11/26）

『日本書紀』編纂 1300 年イベント

飛鳥コースを歩く（昨年 10/24）

2020 年度は『日本書紀』編纂 1300 年として、「記紀・万葉プロジェクト」の最終年度です。

木村顧問の講話（同年 11/29）

当会は文化資源活用補助金（県文化・教育・暮らし創造部）採択事業として、「歩く･見る･学ぶ！『日本書紀』物語 2020」を開催しました。

橿原コースを歩く（同日）

飛鳥･橿原・桜井の 3 コースを設定し、冒頭約 1 時間は木村顧問の講話。そのあとガイドグループの案内で現地を歩きました。

桜井コースを歩く（同年 12/13）

各コースの参加者は、飛鳥 54 人（うちスタッフ 14 人）、橿原 51 人（同 15 人）、桜井 47 人（同 14 人）と盛況でした。

食事は大神神社門前「福神堂」（同日）

「リモート観光」実証実験に協力

三菱 UFJ 銀行が中心になり、来年度にリモート観光を実施するに先立ち、奈良市内の社寺で「実証実験」を行うこととなりました。

奈良市内の寺院で（昨年 12/6）

当会ではガイドグループが中心となって協力しました。首掛け式のカメラとマイクを装着し、関東などに住む三菱 UFJ グループの社員ご家族に、社寺を案内しました。

当会初の「講師会議」を開催

奈良もちいどのセンター街の「BONCHI」3 階で、雑賀副理事長の呼びかけにより当会としては初めて、講師経験者・希望者が一堂に会する会議を開催しました。相互の交流を図るとともに皆さんの希望を聞き、今後より充実した講演活動を展開するために開催されたもので､19 人が出席しました。

冒頭挨拶の模様（昨年 12/11）

私も発言の機会をいただき、①講演のテーマは「古代史」に限定しない②講演は「エンターテインメント」講師は「エンターテイナー」③小難しい話ではなく「面白くてためになる」講演を④著作権などで気になるときは遠慮なく相談を、と申し上げました。

この会議終了後、新たに 6 人の講師登録をいただきました。来年度以降は、当会の全会員に声をかけるなど、新たな講師候補者の発掘に努めてまいります。

「奈良 SDGs 学び旅」に協力

奈良公園コース（本年 1/10）

2020 年度から当会は、奈良商工会議所などが実施する SDGs（エスディージーズ）をテーマとしたツアーに協力することとなりました。2021 年 1 月 25 日以降に実施するモニターツアーに先立ち 12/18（座学）、1/10（現地）、1/15（同）の 3 回にわたり「ガイド養成セミナー」が実施され、多くの会員が参加しました。

ならまちコース（同年 1/15）

研究発表会 2021「神仙境吉野」

本年 2 月 14 日（日）当会の研究発表会を開催します。吉野を見直す会の『神仙境吉野の謎に迫る』（京阪奈新書）をテーマとした講演会です（コロナ禍のなか懇親会は自粛いたします）。本書の一端を奈良新聞に紹介しました。

明風清音

神仙境吉野の謎に迫る

鈴田　憲男

大淀町学芸員の松田度（わたんじゅ）考古学では縄文（じょう）が群在する赤岩渓谷（黒滝村）がある。《古代人はどこから来たのか知れない。》

一方、金の鉱脈のない吉野に「金峯山」など金のつく地名や社寺がある。

《黄金（こがね）の山は実在するのか？》

修験者の組織が発展するにつれ、理想的な聞書を求めるようになる。そこで『続日本紀』に登場する役小角（えんのおづぬ＝役行者）に目をつけ、上信信仰が絡まり合って修験道が確生したというのが笹田説で、これは目からウロコだった。

以上章と章から抜粋して、紹介したが、奈良芸術短期大学教授・南園哲知氏の推薦文によれば（自扇は第3章です。中略）6年に及ぶ座学と現地踏査に基づいて書き上げられた、古代吉野を学ぶための必携の書となっています。私も3章から読み始めた。

皆さん、ぜひ本書を手にして、現地をお訪ねください。

（ことだ・のりおし＝奈良まほろばソムリエの会専務理事）

のことで、地質学では縄文（じょう）村）がある。《古代人はどこから来たのか知れない。》

一方、金の鉱脈のない吉野にたのも知れない。

「金峯山」など金のつく地名や社寺がある。

《黄金（こがね）の山は実在するのか？》

が、神の住まう理想の山（実在床ではない。しかし鉄なら多くの鉱だ酸化第二鉄鉱が土状の不位置測からの。いったい何が吉野山は「黄

金峯」という名で喧伝される

ようになったのだろう。

▼修験道の発祥と聖宗再生

よく「密教が役行者を発見した」といわれる。初期密教だった本霊寺記には金峯山と葛城山の間に櫃を架けようとする話が登場する。それが鎌倉時代の『今昔物語集』に載り（金峯山の蔵王権現は小角が祈り出した）となり、吉野修験道の開祖は小角だということになる（聖宝は中興の祖に収まる）。

開祖として崇められるようになる。

『続日本紀』で小角は葛城山で修行したとされ、吉野は出てこない。しかし平安初期の一日本霊寺記には金峯山と葛城山の間に櫃を架けようとする話が登場する。それが鎌倉時代の『今昔物語集』に載り（金峯山の蔵王権現は小角が祈り出した）となり、吉野修験道の開祖は小角だということになる（聖宝は中興の祖に収まる）。

なお修験道の峯入り修行は、

入峯者が一旦死に、それが母胎である金山で修行し、成仏した上で再生すること象徴的に表す（蘇死再生）。

山上ヶ岳（大峯山）は宗教を問わず全国から山岳修行者の集まる行場だった。なぜ法華経の信者が含まれていて、胎内くぐりをして再生するという教理にちなみ、「安産・子安の神」とされる「聖宝権神」が山上に祀られるようになった。

これら宗教・聖宝（しょうほう）に継承された聖宝（しょうほう）に継承される。聖宝は醍醐寺の開祖で、のち当山派修験道の祖となり、逆峯（吉野・山上ヶ熊野）の道を開いたといわれる。

「明風清音」（昨年 11/19 付）

シリーズ「万葉集」

万葉びとの知性（１）

昨年は「万葉集のあらまし」という表題で 3 回に分けて万葉集の概要を見てきましたが、今号から 4 回にわたって「万葉びとの知性」という表題で万葉びとがいかに知性豊かであったかを見ていきたいと思います。

万葉集は、通常、漢字・仮名まじりで書かれた読み下し文(以下、「読下文」という)を目にしていますが、原文はすべて漢字で表記されており、原文で見ると、読下文を見ているだけではわからない万葉びとの豊かな知性＜漢字の知識・掛け算の知識・陰陽五行思想の知識など＞がわかります。

■万葉びとは古代中国語の知識があった

巻 1-13 歌碑：井寺池畔

中大兄皇子（後の天智天皇）の大和三山歌（巻 1-13）は有名ですが、一句目は、読下文では「香具山」と書かれていますが、原文では「高山」と表記されています。

原文	高山波　雲根火雄男志等 耳梨與　相諍競伎 ･･･
読下文	香具山(かぐやま)は　畝火(うねび)ををしと 耳梨(みみなし)と　相(あひ)あらそひき ･･･

大和三山の中では最も目立たない山容の山である香具山をなぜ高山と表記しているのかです。諸説ありますが「高」の中国上古音は「コグ」という音であったことから、「コグ」が「カグ」と読まれるようになり、この中国音を漢字二文字で「香具」と表記するようになったという説があります。

香具山は、万葉集には題詞も含めて 16 回も出てきます。原文では高山、香山、芳山、芳来山、香来山など様々な表記で 9 回、香具山という表記で 6 回、青香具山で 1 回出てきます。

■万葉びとは掛け算の知識があった　ー九九の用字ー

日本に九九が伝わってきた正確な時期はわかりませんが、2010 年 12 月に平城宮跡で「九九」を記した 8 世紀の木簡が出土しました。木簡には「一九如九」と書かれています。

万葉集に収められている歌の中で詠われた年がわかる歌があります。その一つは明日香皇女の殯宮の時に柿本人麻呂が作った歌（巻 2-196）です。明日香皇女が死去した年月は文武 4 年(700) 4 月であることから、7 世紀後半には貴族や官人は掛け算の知識を持っていたことがわかります。

万葉集の中で九九の用字を使っているのは、柿本人麻呂、山部赤人、大伴坂上郎女、大伴家持など、錚々たる万葉歌人たちです。

１．「十六」と書いて「鹿猪(しし)」と詠んでいました。＜四×四＝十六＞

原文	･･･ 竹玉乎　繁尓貫垂 十六自物　膝折伏 ･･･ (巻 3-379)〈大伴坂上郎女〉
読下文	･･･竹玉(たかだま)を　繁(しじ)に貫(ぬ)き垂(た)れ　鹿猪(しし)じもの　膝(ひざ)折り伏し･･･

２．「八十一」と書いて「くく」と詠んでいました。＜九×九＝八十一＞

原文	足引乃　許乃間立八十一 霍公鳥　（巻 8-1495） 〈大伴家持〉
読下文	あしひきの　木(こ)の間(ま)立(だ)ち潜(く)く　霍公鳥(ほととぎす)

３．「三五」と書いて「もち」と詠んでいました。＜三×五＝十五＞

原文	･･･ 敷妙之　袖携　鏡成　雖見不猒　三五月之 ･･･ (巻 2-196)〈柿本人麻呂〉
読下文	明日香皇女の･･･殯宮の時に、柿本朝臣人麻呂の作れる歌 ･･･敷栲(しきたへ)の　袖(そで)たづさはり鏡なす　見れども飽かず望月(もちづき)の･･･ 口訳：美しい衣の袖をたずさえては、鏡のように見飽きず、満月のように

十五といえば十五夜です。陰暦十五夜の月は望月とも言われていることから、「三五月」と書いて「望月」と読みます。あるいは「十五月」と書いて「望月」と詠む歌（巻 13-3324）もあります。

他に九九の用字として次のようなものがあります。

①「二二」と書いて「し」＜二×二＝四（し）＞と詠んでいます。(巻 6-907)

②「二五」と書いて「とを」＜二×五＝十（とを）＞と詠んでいます。（巻 11-2710）

このように万葉集に掛け算の知識が使われていたことを知ると万葉集のイメージが変わり、さらに面白くなるのではないかと思います。

（米谷　潔）

「10 周年記念　座談会」開催される

令和 2 年 10 月 18 日(日)、きらっ都・奈良（BONCHI）にて、当会 10 周年記念誌のための座談会「奈良の未来を創造する－奈良まほろばソムリエの会の可能性－」が行われました。

これは、各グループから選ばれた方によって、当会の未来を語り合うという企画です。何といっても初めてのことで、最初は皆さんドキドキ緊張気味でしたが、自己紹介を終えるころには笑顔もこぼれ、和やかな雰囲気となりました。

司会は、今年度入会の京阪奈情報教育出版の加藤なほさんと広報 G 松森重博理事。座談会は啓発 G の大山恵功理事、保存継承 G の中川崇さん、ガイド G の西川年文さん、講演講座 G の加地潤二さん、ソムリエンヌの寺田麻美さん。

当会には、地元奈良に精通されている奈良在住の方だけでなく、大阪や京都の方、日本各地、海外に赴任されていた方々もいらっしゃいます。奈良のことを内からも外からもみて、貴重な意見や経験を活かせるのも強みです。この日は、修学旅行で薬師寺にお参りした時、故高田好胤管主のお話を聞かれたという方もいらっしゃいました。

そんな方の参加で、奈良の魅力や奈良観光の問題点などをテーマに様々な意見が出されました。そして、問題点を解決するために当会でできることは何か、奈良の未来を創造するにはどのようにすれば良いか、など活発な意見が交換されました。

さて、この座談会、いったいどんな内容だったのでしょうか。詳しくは 6 月に発行される当会 10 周年記念誌に掲載されます。当会の未来はいかに！？どうぞお楽しみにお待ち下さい。

（広報 G　増田優子）

シリーズ「會津八一（続）」

歌人・美術史家・書家の會津八一(1881～1956)は、奈良の寺などに関して深い学識に支えられた短歌を詠んでおり、その集大成が『自註鹿鳴集』(岩波文庫)です。

奈良県内にある延べ 21 の歌碑のうち 9 基については「ソムリエの風」第 12～16 号で紹介したので、今回は残る 12 基のうち 9 基を紹介します。

◎法輪寺「奈良博物館にて」

くわんおんの　しろきひたひに
やうらくの　かげうごかして　か
ぜわたるみゆ

大意。観世音菩薩像の白い額にうつる瓔珞の影をゆりうごかして、風の吹きわたるのが見える。（吉野秀雄『鹿鳴集歌解』。以後、大意は同書による。）

一般に瓔珞と言えば首飾りのことですが、この歌では十一面観音の宝冠から垂れ下がっている紐形の装飾を意味します。今は外されていますが、この歌を詠んだ時には掛けられていました。しかし、風で揺れ動くようなものではなく、八一自身は、心の感動が瓔珞を動かしたのかもしれない、と述べています(「観音の瓔珞」)。

歌碑は高さ 169cm の生駒石で、講堂の東に立っています。

◎秋篠寺「秋篠寺にて」

あきしのの　みてらをいでて　か
へりみる　いこまがたけに　ひは
おちむとす

秋篠寺を出てふりかえりみると、生駒山にちやうど陽が没(お)ちようとするところだ。

境内には伎芸天を讃えた川田順や吉野秀雄の歌碑が立っていますが、八一が訪れた時には奈良国立博物館に寄託されていました。心燃えつつ訪ねたにも関わらず、仏様がおられず寂しく門を出た心情が秋の落日に表わされています。

歌碑は高さ 145cm の御影石で、南門を入ってすぐ西に立っています。　**（池内　力）**

シリーズ「奈良スケッチ紀行」～水彩画で巡る名所・旧跡～

第１弾 二月堂へは裏参道がおすすめ

寺社巡りをしながら絵になる風景を探すのが常ですが、東大寺で一番好きな場所がこちらになります。

殆どの方が手向山八幡宮の鳥居をくぐって登られますが、私は必ず裏参道を進みます。十一面観音様の良い気を戴きながらゆっくりと歩きます。昨夏はこちらで沢ガニにも出会いました。途中には大湯屋もあり、いにしえに多くの僧侶がこちらで体を清めて修行をされたのだと思うと胸が熱くなります。

実忠もこの道を歩いたのでしょうか。間もなく修二会の季節となりますが、練行衆となる僧侶の方々は、すでに寝食を共にして前行を始められているかと思います。疫病に負けることなく、鎮護国家を願い、今年も無事大松明に火がともることを心より祈るばかりです。

尚、私事となりますが、昨年９月より YouTube「奈良とびっきり観光ガイド」を始めました。よろしければチャンネル登録のご協力をお願い致します。

（広報Ｇ　佳山 隆生）

シリーズ「鉄道スポット」

橿原神宮前駅の「台車交換設備」

「橿原神宮前駅」構内の台車振替場

近鉄電車は様々な鉄道会社が合併して今の路線の姿ができています。そのため、その前身の会社の違いにより線路幅が２種類あります。

一つは「阿部野橋駅」を起点とする南大阪線系統の 1067 ㎜(狭軌)、もう一つはそれ以外「大阪線・奈良線・橿原線」などの 1435 ㎜（標準軌）です。（以前は三重県内に 762 ㎜もありましたが別会社になりました）

日常の点検・検査はそれぞれの路線内にある車庫（西大寺・東花園・古市など）で行いますが、自動車の車検に相当する大きな検査は、大阪線にある「五位堂検修車庫」で行われています。しかし線路幅が異なる南大阪線車両は自走して入庫することができません。

そこで使われるのが狭軌と標準軌が接する「橿原神宮前駅」構内にある非常に珍しい設備「台車振替場」です。橿原線ホームから東改札口へ向かう踏切から北側に目を向けると標準軌・狭軌の４本のレールが敷かれた建物が見られます。

この中に入った狭軌車両はクレーンで吊り上げられ、標準軌の仮台車に交換されます。しかし仮台車では自走できないため「電動貨車」に挟まれて、八木西口駅と大阪線を結ぶ連絡線を通って「五位堂」まで回送されます。

電動貨車

また「けいはんな線」は標準軌ですが直通する「大阪メトロ」に併せて屋根上に集電の為のパンタグラフがありません。そのためやはり通常の路線を自走できないので車庫に近い奈良線「東生駒駅」の東に設けられた連絡線を経由して電動貨車で五位堂に向かいます。

（小林 誠一）

新会員紹介

皆様初めまして、根本と申します。1966 年に奈良市学園前に生まれ。大阪明星高校、同志社大学経済学部を卒業、野村證券に入社し資産運用業務を専任してからは東京在住（錦糸町）です。2015 年に転職しさわかみ投信（株）にて中小企業への確定拠出年金の導入サポートが本業です。

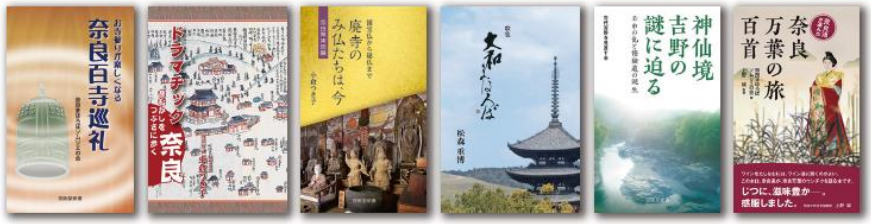
大きな体験として、2001 年にニューヨークで 911 同時テロを被災しました。現場で気づいたのは、テロと神風特攻隊が本質的に異なることと日本政府は海外滞在者を救出できないことでした。日本人であることを強烈に意識させられたことから、日本人の精神的ルーツについて学び始めました。古事記・日本書紀や神道・仏教に答えはあると考えています。そして、国のまほろばである故郷に強い愛着を抱いています。

ソムリエの会では啓発グループに所属し、奈良の歴史・文化・観光の調査・研究・啓蒙活動に勤しみます。

東京奈良県人会会員として日本橋のまほろば館にて講座等の企画も担っています。東京にも奈良に関心を抱く人たちが多いことを活かし、東京での講座開催や楽しい企画を展開していきたいと考えています。

受け継いだ日本人の精神を後世に伝えることを目標に動き回ります。ご指導の程、宜しくお願いいたします。

（根本　幸治）



『奈良万葉の旅百首』奈良まほろばソムリエの会
奈良まほろばソムリエの会会員の総力を結集して奈良通が編集した、奈良の万葉歌碑を巡る、奈良愛溢れる一冊。巻頭カラーは万葉人も見たであろう大和路風景満載。2 月末発売開始!! あなたも、この本を片手に歌碑巡りしてみてはいかが？奈良大学上野誠先生監修。

奈良の魅力を奈良人が奈良から発信！！　京阪奈新書、あをによし文庫、奈良ガイド、自費出版　京阪奈情報教育出版　検索

◆京阪奈情報教育出版から当会 4 冊目の本が発刊！『奈良通が選んだ 奈良万葉の旅百首』【専務理事　鉄田憲男】

まもなく『奈良万葉の旅百首』が発刊されます！当会 4 冊目の本で、同社からは一昨年の『奈良百寺巡礼』に続く 2 冊目の本です。岡本三千代さん（犬養万葉記念館館長）の「推薦のことば」には《地図や歌碑が紹介されたり、現地を訪ねるために掲載された情報がとてもきめ細やかで、興味深い写真なども盛り込まれています》。典雅なカバーイラストはなかじまゆたかさん、カバーデザインは千田淳さん、本文デザインは長谷川美里さんです。

＜編集後記＞

昨年は毎日マスクをした生活が始まり、在宅勤務などいろんなことがオンラインになるなど、いろいろ変わった 1 年でした。今年は会ができて 10 周年になります。コロナ禍が過ぎ去って新たな始まりになることを期待します。

（広報 G）磯兼・風間・柏尾・梶尾・加藤・佳山・窪田・小林（誠）・雑賀・沢田・島田・中村・廣岡・二上・福岡・藤田・増田・松森・吉川

特定非営利活動法人　奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8217 **奈良市橋本町 3-1 きらっ都・奈良内 NARAEGG 気付**

ホームページ：http://stomo.jp/

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記（ブログ）：http://nara-stomo.seesaa.net/

HP の QR コード